



# 緑と太陽

# やすらぎのまち

## 城陽市

### ◆城陽市の概要

城陽市は京都から五里、奈良から五里の距離に位置する交通の要衝として発展してきた街で、日本最古級の古墳など歴史遺産が多く残る街です。また特産品の梅やイチジク、国内生産量の約6割を占める金銀糸の生産など、様々な独自色のある産業が栄える街でもあります。

本市では一面の梅の花を楽しめる青谷梅林の梅まつりや、冬のイルミネーション「TWINKLE JOYO」等、様々なイベントを開催し皆様をお待ちしております。



城陽市イメージキャラクター「じょうりんちゃん」



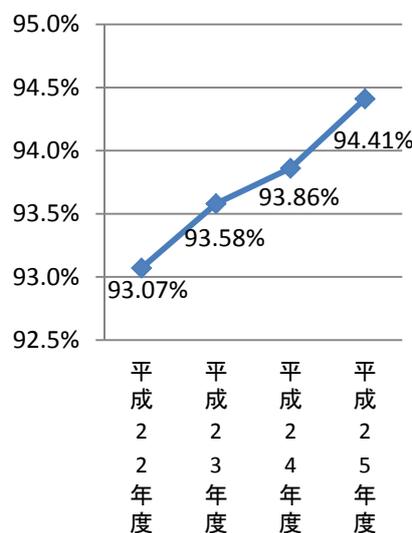
城陽市内 青谷梅林の梅

### ◆国保事業の現況

平成25年度末における城陽市国民健康保険の加入被保険者数は21,970人で、平成26年4月1日現在の人口78,111人の約28.1%となっております。

近年、医療費の伸びが著しく、一人当たり療養諸費が36万円を超えるなど、府内でも高い水準にあります。

### 保険料徴収率



### ◆医療費の適正化について

城陽市では医療費適正化を目的として、平成25年度より京都府国民健康保険団体連合会と契約し、後発医薬品差額通知を実施しています。

平成26年1～3月の3ヶ月間にわたり差額通知を発送し、その後、平成26年2月～5月の医療費を分析したところ、大きな医療費削減効果が確認できました。平成26年度は6回の通知書発送を予定しており、今後

とも、後発医薬品の差額通知およびその分析に注力していく予定です。

また、本年度は医療費データ分析を予定しており、その分析結果を元に、来年度に向けて更なる医療費の適正化を進めていくことを検討しています。

### ◆人間ドック・脳ドック助成

被保険者の生活習慣病等の早期発見、早期治療を推進するため、35歳以上の国保加入者に対して、人間ドック・脳ドック及びその併用受診への補助を実施しています。

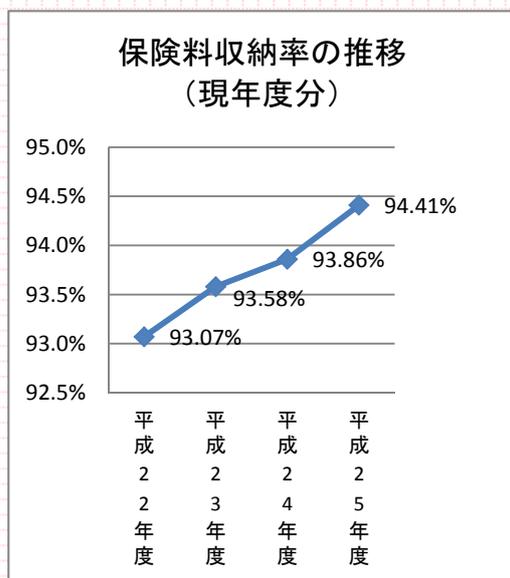
事業の実施にあたっては、宇治市、城陽市及び久御山町合同で取り組んでおり、京都市内の11医療機関も含めた全21医療機関で受診ができる状況となっております。また、生活習慣病予防について効果的な対策を行うため、人間ドックで成人病予備群と判断された被保険者に対しては嘱託看護師による訪問指導を実施しており、将来に向けた被保険者の健康増進と医療費抑制を目指しています。

健診種別	定員	申込者数
人間ドック	200人	416人
脳ドック	100人	214人
人間ドック・脳ドック併用	400人	839人
合計	700人	1,469人

### ◆収納率向上対策について

特別地方公共団体「京都地方税機構」（以下、「機構」という）の発足に伴い、平成22年1月より城陽市では滞納された国民健康保険料の徴収について、税と一括で機構に移管しています。

ですが滞納者に対しては、機構に任せきりにすることなく、徴収事務専門の嘱託職員を任用し、市役所に来られた滞納者との第一次折衝と、機構担当者へのスムーズな引き継ぎを行っており、機構の調査・徴収能力を最大限活用できる環境を構築しています。



### ◆国民健康保険に関する啓発活動について

城陽市では、市広報紙での記事掲載とは別に、年に3回、国民健康保険専用の広報紙「国保だより」を発行・全戸配布を行い、国保に係る啓発活動を実施しています。

### <広報紙の掲載内容（抜粋）>

発行月	内容
6月号	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国民健康保険料の構造や新年度の料率の説明等</li> <li>・納付方法や滞納に関する説明と減免の説明</li> <li>・特定健診・各種がん検診等の呼びかけ 等</li> </ul>
12月号	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一人当たり医療費などの医療費の実態</li> <li>・医療機関での適正受診の呼びかけ 等</li> </ul>
3月号	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医療費分析の結果</li> <li>・高額療養費などの各種制度の解説</li> <li>・窓口手続きが必要なケースと必要な持参物の一覧表 等</li> </ul>

その時々に応じて制度改正の解説等、被保険者の生活に直結する情報や、後発医薬品利用の勧奨などの掲載も行っています。



広報紙 「国保だより」